

1. 単元名 たしざん「1 2. たしざん」

2. 単元について

【学習指導要領より】

- A(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。
 - イ(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式にしたり、式を読み取ったりすること。
 - ウ(ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
 - エ(エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。
 - イ(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

本単元に関わる既習内容として、6月の「あわせていくつ」の学習で、1位数と1位数の加法の計算の仕方や、加法が用いられる場面を式に表すことを学んでいる。その際自分の考えをブロックや図、式に表す活動を行ってきた。本時では、和が10よりも大きくなる数の計算の仕方について取り上げる。加数を分解して10を作るだけでなく、被加数を分解して10を作ってもよいことに気付かせ、計算の仕方の幅を広げられるようにしたい。

3. 児童の実態

4. 研究テーマに関わって

令和4年度岐阜市小算数部会

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

重点項目(1)「個別最適な学び」からの授業改善

重点項目(2)協働的に学びを深める数学的活動の具体化

重点項目(1)「個別最適な学び」からの授業改善

「個別最適な学び」は一定の目標を全ての児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進められるように設定することだと考える。本単元においては、課題追究の場では、課題解決を補助するヒントをteamsのファイルに載せ、自由にヒントを見られるようにした。自分に必要な情報を自分で選択し、「自分で考えてできた」という達成感を味わわせたい。

重点項目(2)協働的に学びを深める数学的活動の具体化

上記の個別最適な学びを有効にするには、仲間との考え方の共有が必要であると考え。本時は、前時までの学習で○図を使って自分の考えを上手に説明しているノートを見られるようにした。仲間に分かりやすく伝えることを意識させることや、仲間の発表から解決の手掛かりを探したり、仲間の問題の解き方を説明したりすることが、協働的に学びを深めることと考える。また、算数の学習が苦手な児童にもヒントを活用して「自分で考えてできた」という達成感を味わわせることで、仲間を意識した協働的に学びを深める活動に取り組むことができると考える。

5. 本時のねらい 1位数1位数をたして、和が11以上になる加法の計算の仕方を理解する。

6. 本時の展開 (3/7)

	学習活動	指導・援助
導入	<p>1. 本時の課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> たまごが 3こ あります。 パックに 8こ あります。 たまごは ぜんぶで なんこ ありますか。 </div> <p>○どのように計算をするとよいか見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜんぶでがあるからだからたしざんだ。 ・$8 + 3$の時は3を1と2に分けて10を作った。 ・式は$3 + 8$だ。 ・10をつくれればできそうだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 課題 $3 + 8$のけいさんのしかたをかんがえよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提示の前に、既習事項の確認をする。 ・デジタル教科書の問題を提示する。問題のプリントを配付し、ノートに貼る。 ・前時との違いを確認する。たしざんことば・ひきざんことばの掲示物を確認し、立式させる。
展開	<p>2. 課題を追究する。</p> <p>個人追及 ブロック操作, 図, 言葉で計算の仕方を考える。</p> <p>① 8を7と1に分けて10を作って計算する。</p> <p style="text-align: center;">○図、ブロック操作</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> $3 + 8 = \overset{10}{\boxed{3 + 7}} + 1 = 11$ <div style="margin-left: 20px;"> </div> </div> <p style="text-align: right;">さくらんぼ図</p> <div style="text-align: right;"> </div> <p>言葉 8を7と1にわけて、7を3にたすと10になります。のこりの、1と10をあわせて11になります。だから、こたえは11です。</p> <p>② 3を1と2に分けて10を作って計算する。</p> <p style="text-align: center;">○図、ブロック操作</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> $3 + 8 = 1 + \boxed{2 + 8} = 11$ <div style="margin-left: 20px;"> </div> </div> <p style="text-align: right;">さくらんぼ図</p> <div style="text-align: right;"> </div> <p>言葉 3を1と2にわけて、2を8にたすと10になります。のこりの、1と10をあわせて11になります。だから、こたえは11です。</p> <p>3. 全体交流をする 求め方を確認する。 被加数分解の考えでも加数分解と同じ和になり、正しいことを確認する。</p> <p>4. 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> まとめ $3 + 8$のけいさんは8をわけても、3をわけてもできる。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>個別最適な学び① 個人追究のために Teams のファイルに10の作り方や○図を使って自分の考えを上手に説明されているノート、話型など選択できるヒントを用意する。 課題に取り組む前にヒントを紹介し、必要に応じてヒントを使って考えてもよいことを伝える。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>協働的な学び② 仲間の発表から解決の手掛かりを探したり、仲間に問題の解き方を説明したりさせる。仲間に考えを伝えようと取り組む。 ノートに書いてある児童の考えをタブレット端末で写真に撮り、大型テレビに映す。 全体交流後、隣の席の仲間に自分の考えを伝えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えが書けなかったり、ヒントを探せなかったりする児童を見届け、支援する。 </div>
終末	<p>5. 深める問題を解く。(個人)</p> <p>○P114 練習5を解く。 ○スタディサプリに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補充問題の答えをタブレットに配付し、個別に答え合わせをする。答え合わせができた児童は、スタディサプリに出されている課題に取り組ませる。

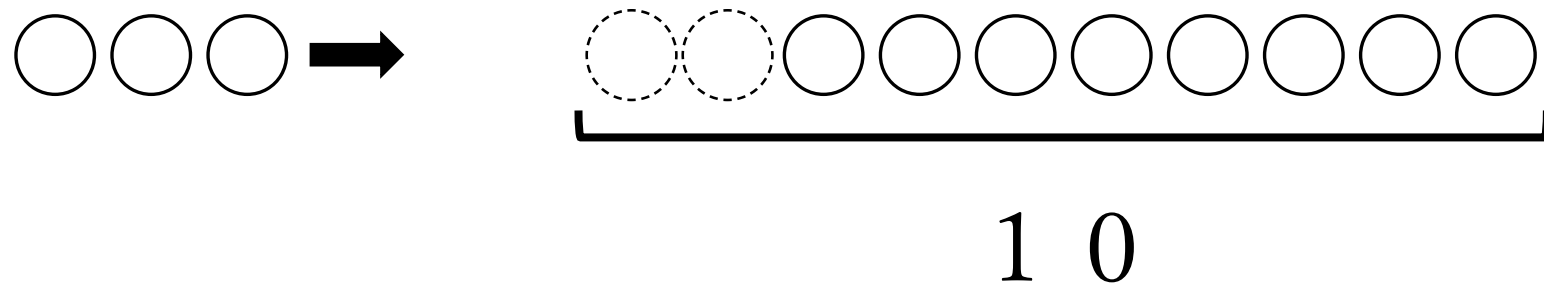
1 0 をつくりよう ①



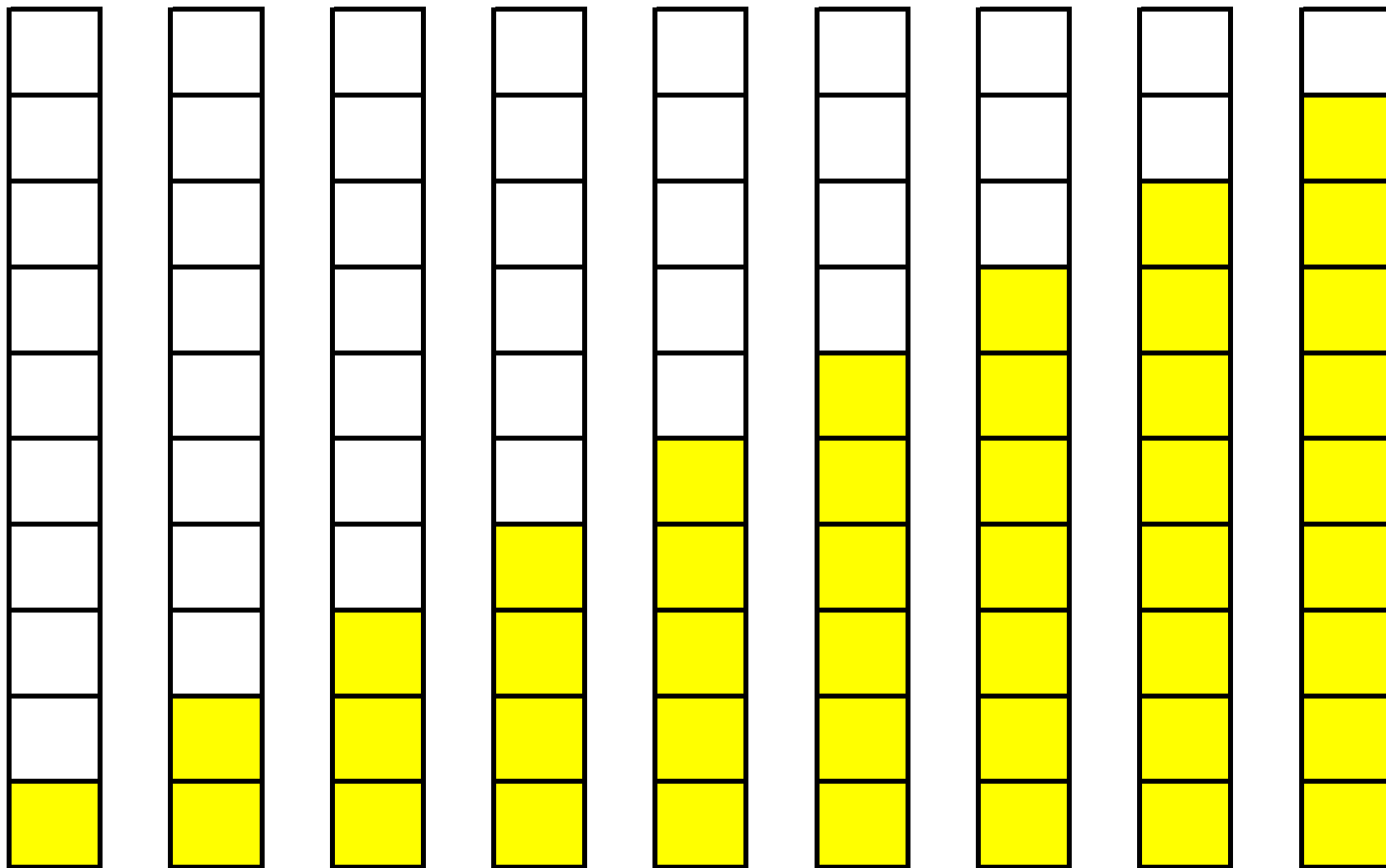
1 0



1 0 をつくろう ②



10のつくりかた



9と1

8と2

7と3

6と4

5と5

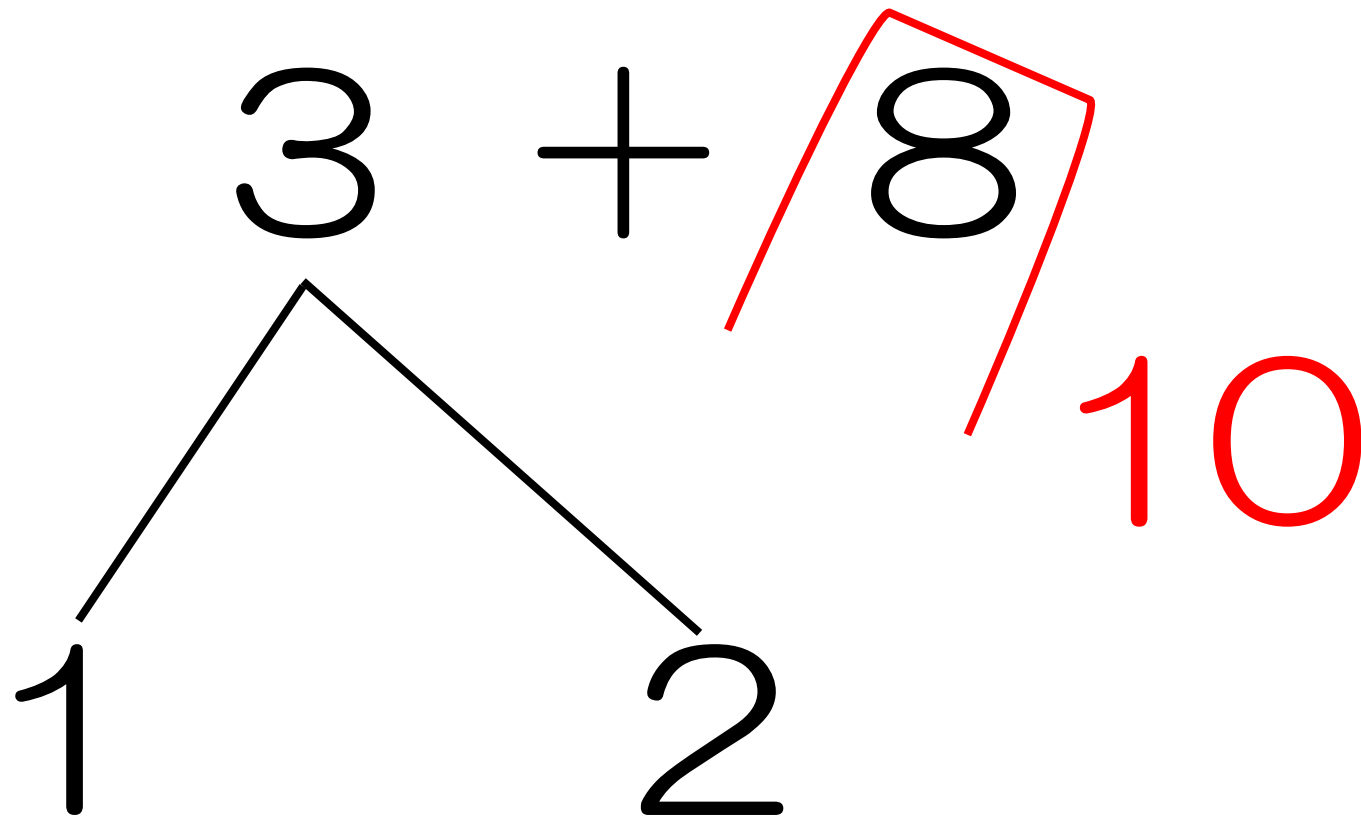
4と6

3と7

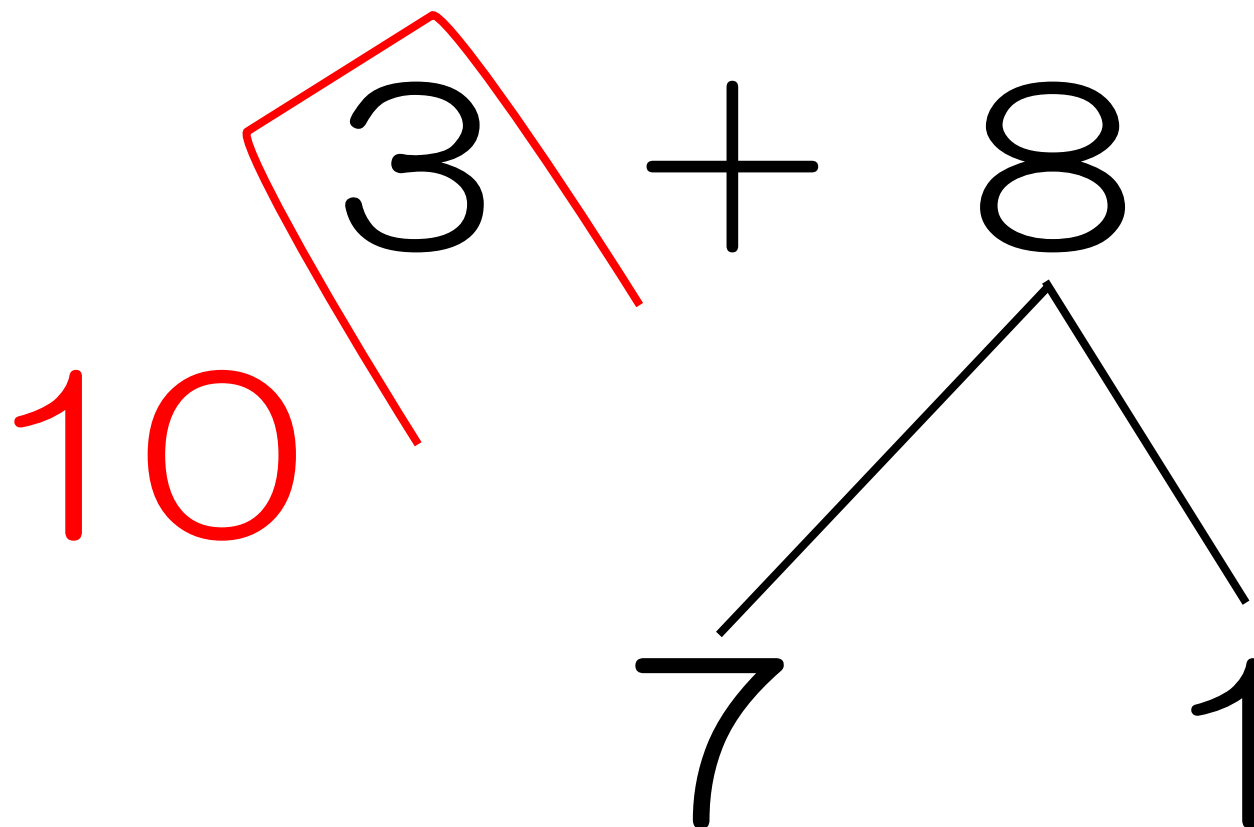
2と8

1と9

ヒント① 10をつくらう



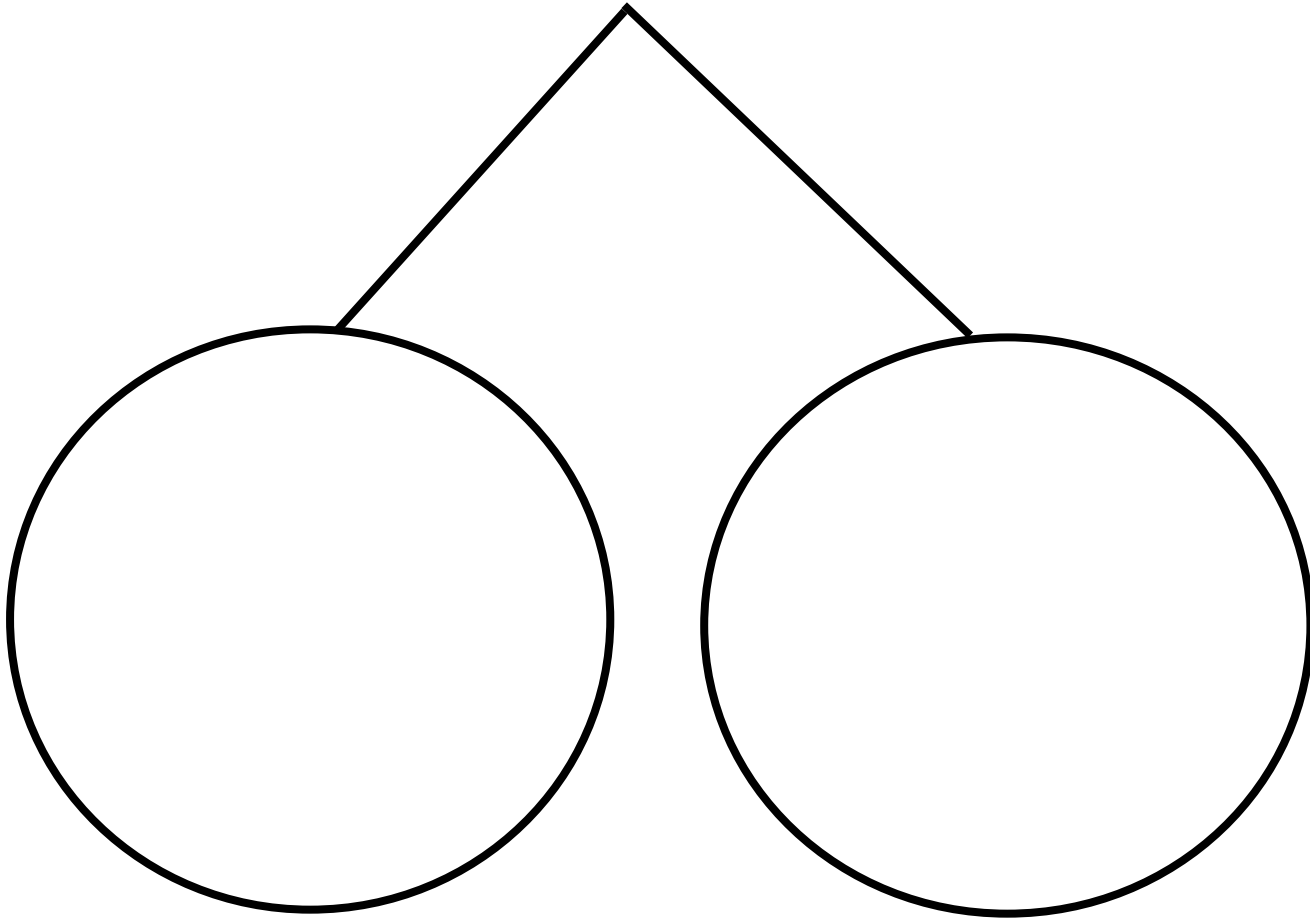
ヒント② 10をつくらう



3

+

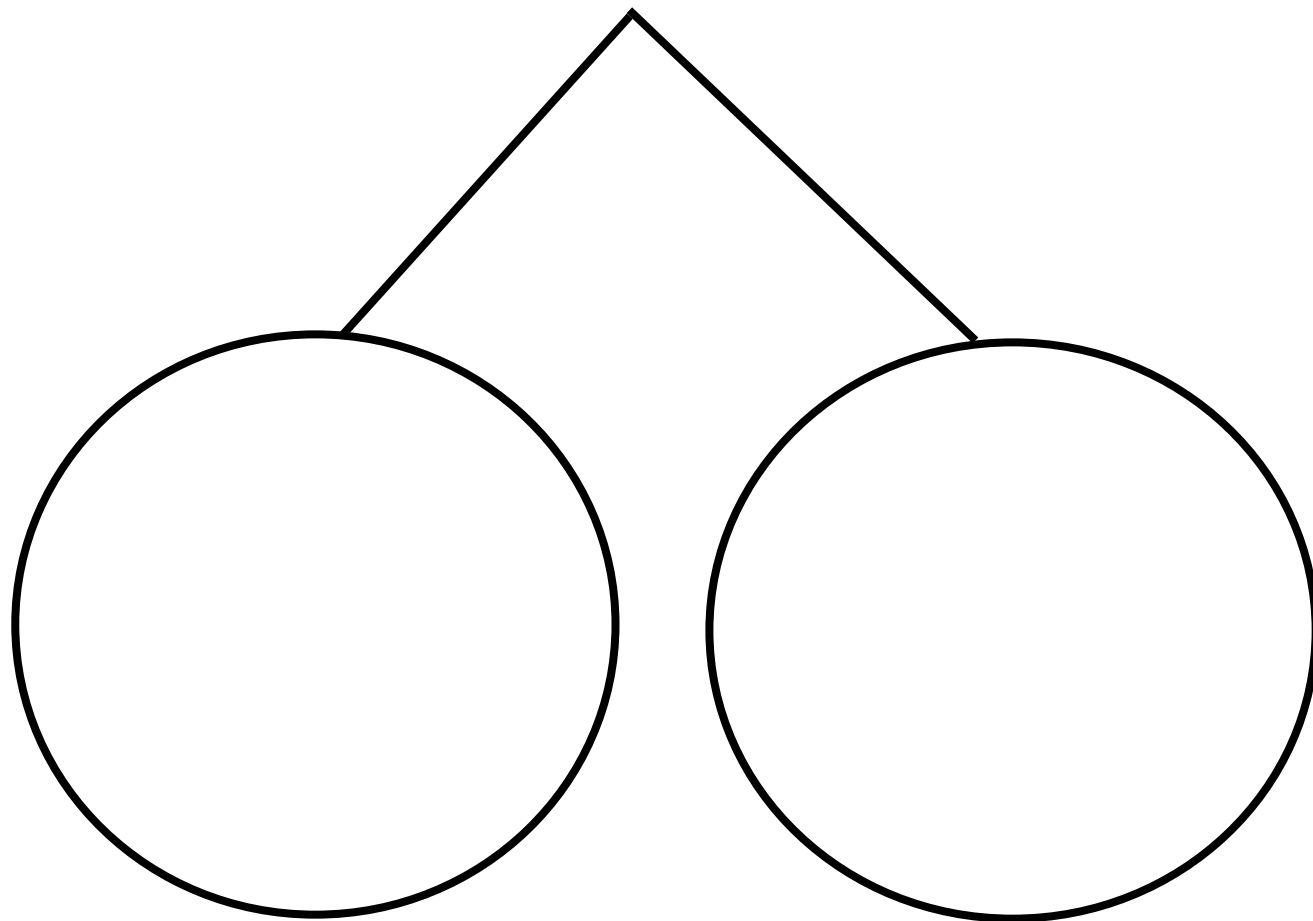
8



3

+

8



ヒント □にすうじをいれよう。

① 8は、あと□で10です。

② 3は□と□にわかれます。

③ 3のなかの

□を8にたして10です。

④ 10と□で□です。